

# キャンパスレポーター 研究室訪問

第6回

## 民法 経済学部 藤村賢訓 准教授

レポーターの大分大学経済学部2年の渡邊洋司です。  
大分南高校2年の榎谷美月と小島瑛里です。

私たちは平成24年度後期の学問探検ゼミと一緒に学んでいます。今回は、私たち3名が経済学部の藤村賢訓先生の研究室を訪問して、先生の研究内容やゼミ活動、先生ご自身のことなどについてインタビューします。



<渡邊> まず先生の研究内容について質問していきたいと思います。

<榎谷> 先生はどのような研究をされているんですか。

<藤村准教授> 人の暮らしに直接関係するような法律を“民法”と言いますが、私はこの法律を研究しています。そのなかでも私の専門分野は“自己決定権”というものです。他にも例えば、家族のあり方とかに関して“家族法”というのがありますが、その分野についても研究をしています。

<渡邊> ありがとうございます。すごく幅の広い民法という学問のなかで、先生の研究分野についてお伺いしましたが、民法には他にどのようなものがありますか。

<藤村准教授> 民法は、簡単に言うと人が生まれてから亡くなるまでの事を決めている法律です。簡単に言うとゆりかごから墓場までじゃないですけど、生まれてから死ぬまでの事についての取り決めをしているのが民法です。

経済学部  
地域システム学科  
民法  
藤村賢訓 准教授



プロフィール

1997年 福岡大学法学修士  
主な研究は「英国における意思決定代行法制の研究」、「電子商取引に関する民事責任」である。

2008年～ 成年後見・権利擁護ネット大分理事

<榎谷> 私は、この前習った「未成年は、一度契約したものを取り消すことができる」というのを聞いて安心しました。民法って面白いなあって思いました。

<藤村准教授> そう、結構身近なんですね。未成年者は保護されているんです。そういう意味では、“やさしい法律”です。その他にも消費者法とかクーリングオフ制度などありますが、騙されたりした場合には、法律がきちんと救わないといけません。そういうことはきちんと制度化されている部分があると思います。

<渡邊> 次に、先生が担当しているゼミ活動について質

間をしていきたいと思います。



<小島>先生のゼミの中ではどのような事をしているんですか。

<藤村准教授>ゼミは、皆さんが受講している中級演習と基本的には同じですが、もう少し複雑な実際の裁判所の判決を使って、グループで報告をします。



<榎谷>ゼミの雰囲気はどうですか。

<藤村准教授>わいわいしています。僕があまり厳しくないためか、“法律サークル”みたいな楽しい感じになっています。公務員や法律に関係するような仕事に就きたいという人が多いんですけど、就職は順調です。

<渡邊>「他のゼミとはここが違うよ」というようなゼミの特色はありますか。



<藤村准教授>法律のゼミということですから学生側からの話題が多いかと思っています。私もその議論

の参加者のひとりとしてサポートしながら、みんなで授業しているところが他のゼミとは少し違うのかなと、勝手に思っているところです。

<榎谷>学問探検ゼミに参加する前に高校の先生や先輩から「大学は高校と違って待ってくれない」と言われた

んですよ。

<藤村准教授>大学に入学して一番驚くことは、大学の講義は“やらされない”んです。高校までの授業というのはやらないといけないし、“させられてる”という感じがあります。だけど大学に関しては自分の興味がある事を学習するので、そういう意味では皆仲間だし、大学では、あんまり“教師と生徒”という意識はありません。



<小島>先生のゼミの中では、自分の意見を言ったりすることが多いんですけど、自分の意見をあまり言えない人とかにはどういった対処をしているんですか。

<藤村准教授>「自分から話すことは恥ずかしい」という人が多い。まずはやってみるという事ですね。ただ最初誰も意見が言えないなという状態は必ずありますので、その時は私から例えば「こんなのはどうかな」とかいうふうに、話しやすい雰囲気作りをします。他に、順番に話をしてもらい、あまり負担をかけないようにさせています。最初に「何でも良いんですよ」って言ってから始めていくのもひとつの工夫だという気がします。

<渡邊>藤村先生のゼミってすごい人気でいつも抽選になるって学生の間でも話題になっていますが、どうですか。

<藤村准教授>なぜかはよく分からないんですけど確かにすごくたくさん来てくれます。ゼミの定員は12人と決

まっぴりそれ以上取れないのが心苦しいんです。多分ひとつの理由は、経済学部の中で法律をやっている研究室が珍しいからだだと思います。他に、法学部に行きたかった人とか、あるいは公務員になりたい人とか、私のゼミを選んでいるという気がします。

<渡邊> 藤村先生の人柄ですごく集まっているような気がするんですけど。

<藤村准教授> そうであれば有り難いというか、何を見ているのかなと逆に思います。

<渡邊> じゃあ次に大学の先生になったきっかけについてお尋ねします。なぜ先生になろうとしたのですか。

<藤村准教授> 私は大学で法学部だったんですけど実はあんまり考えてなかったんです。法学部に進んでいろいろな授業を聞いてみると、今自分がやっている民法が面白いというか何か意外だったんです。4年生になって、大学院に進むのもいいかなと思ったわけです。そこで私の指導をしていただく先生にお会いして、いろいろと話をお聞きして「大きな視点で法律を研究して、いろんな人に対して何か影響をあたえることができるような研究をしてみてもどうなの」って言われたんです。その先生に影響されて博士課程に進んだことを覚えています。結局人にめぐまれて大学の教師になりました。

<小島> 大学の仕事をされていて大変な事はなんですか。

<藤村准教授> あまり大変とは思わないです。仕事としては、論文を書いたり研究をしたり、大学のいろんな仕事や会議、他に授業も大事です。いろんな仕事で確かに多忙ですが、あまり苦痛とは思わないです。毎日楽しいです。他に、学生と話をする時間が特に楽しいです。

<渡邊> 先生が講義をするなかで工夫していることとかありますか。

<藤村准教授> 民法の講義で、具体例を出すことです。それもできるだけ身近な例を出すということです。イメージしやすく自分だったらどうなるのかなというふうに体験できるような、工夫をしています。

<小島> 普段は何をして過ごしているんですか。

<藤村准教授> 大体ここに居て本を読んだり、今はちょうど卒業論文の時期で、ゼミ生が入ってきて「論文大変です」とか言うので、その論文の面倒を見たりしています。普段の日は、いろんなところに出かけます。



<渡邊> 大分大学って他の大学と比べて何か違うなっていうところはありますか。

<藤村准教授> そうですね。印象としては、学生がすごく真面目でおとなしいです。地元出身者が多いので結構素朴な学生が多いです。あと、就職では遠方に出ようとしないうですね。

<渡邊> 話が戻りますが、先生のゼミにゼミ生を受け入れる時にどういう人を求めていますか。

<藤村准教授> 実はあまりないです。成績はあまり関係

ないです。どちらかというとき現時点の成績というよりも何をしたいかを重視しています。

<榊谷> 短時間で自分の意見をまとめるポイントはありますか。

<藤村准教授> 多分まわりから見ると他の人もあなたの意見をそう思っていると思います。不思議なもので、自分が言ってる事って何か頼りない気がするんです。でもまわりから聞くとしっかり聞こえるものです。考えながら話すまとまりがなくなったりするので、自分の中で言いたいことを頭の中で整理をして、それから発言するという事を心がければ、綺麗に話ができると思います。

<渡邊> 先生の人柄を知る事ができて本当によかったと思います。とても優しくて三年生になる時も藤村先生のゼミに入りたいなあと思いました。私も民法についてもっと学んでいきたいなって思うようになりました。また、高校生二人ともいろいろ打ち合わせをした事も自分のためになると思いました。二人がしっかりしてるので、私が助けられた部分も多々ありました。本当にありがとうございました。



<小島> 私も先生の人柄がすごく優しくて自由な感じが良くなって思いました。先生のゼミは実際の生活の中で役立つし、自分が体験した事を先生に相談できるところが、すごく良いなと思いました。大学生になったら入ってみたいなと思いました。

<榊谷> 私も最初は大学の先生って厳しいイメージを持っていたのですが、入った時から先生はすごく優しくかつたし、何でも自分の意見を言う事をととても尊重してくれ、民法って面白いんだなと思いました。すごく人気があることを聞き、私も大分大学を受験しようと思いました。

<渡邊・小島・榊谷> ありがとうございます。

<藤村准教授> お疲れさまでした。

### キャンパスレポーターを終えて



(左) 経済学部2年 渡邊洋司さん、(中央) 大分南高校2年 小島瑛里さん、(右) 大分南高校2年 榊谷美月さん

インタビュー実施日 2012年12月7日